

機械工学科

平成
九年
度
卒業生一覽
三月二十日付
確定者



電気電子工学科

建築学科

卒業生諸君、晴れての学位取得、まことにめでとございます。

思うに、私は、諸君が四年前に入学されたとき、学長として、第一に「夢を持続せよ」と訓辞致しました。しかし、この場で改めて申し上げたいのは、その夢の持続という行為は、本当は、これからの長い人生においてこそ、意味を持つてくる、ということでもあります。

諸君の多くが厳しい就職戦線の中で身を以て体験されたことであります。ところが、いま社会は、い

かなる職場であれ、時代の大きな転換期に際して、創造性ないしは独創的な人材を、つよく希求致しております。そしてその創造性や独創性というのは、平たく申し上げれば「夢」の中にこそ淵源があるということを肝

に銘じて下さい。

また私は、訓辞の第二点として、「実践の中で学ぼう」ということを申し上げました。おそらく諸君は、これまで多くの実験・実習を通じて、その方法論の何たる

「夢」と「学び」の持続を



理事長
大川 陽康

かを体得されたことと存じますが、それも先の夢の持続同様、ぜひ今後に活かしてはほしい、と念願致しております。

そのことの意味合いは、本日諸君に、はなむけの一

冊としてお渡しした『実学』の達人・中尾哲二郎先輩の教え、つまびらかですが、要するに、ただ単に仕事に流されるのではなく、課せられた業務の中から何かを積極的に学び取って行こうして下さい。

諸君は、ここに目出度く学位を授与されは致しましたが、それは新たな学びの出発でもあるということを、深く心にどめておいて下さい。そして、仕事に壁が生じたとき、あるいは新たな知識の必要性を感じた際には、気軽に母校を活用して英知を養って下さるよう祈念してやみません。

ともあれ長い人生においては、これからが本当の勝負であり、弛まぬ勉強が求められます。

諸君のご健闘を期待して、送別の辞と致します。

システム工学科

大学院工学研究科修了生

■博士後期課程

【建築学専攻】

【機械工学専攻】

■博士前期課程

【機械工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

【電気工学専攻】

◎学位記授与式

三月二十日(金)

留学生別科修了式

六カ国・四十六名に証書授与

大学院進学

君が謝辞



神馬学長より各自に修了証書が授与される

おめでとう
アジアの友



謝辞を述べる黄友培君

から四十六名である。式には理事長・学長、各部長・図書館長に加えて、山岸教授・黒田講師以下別科担当の教員が列席し、初めに修了証書授与が行われた。授与式では、司会が名前を読み上げるなか、修了生各自に神馬学長より修了証書が手渡された。

本学の学生とは違った一歩踏み込んだアドバイスを求められることになる。そのような教員・スタッフの常日頃の努力に對して別科生を代表して、四月からは本学大学院システム工学専攻で学ぶことになる黄友培君が謝辞を述べた。

表して、四月からは本学大学院システム工学専攻で学ぶことになる黄友培君が謝辞を述べた。

学心づくしの料理・飲物を囲み、お世話になった教員や同級生たちとのなかで、なほときを過した。

第五回となった日本工業大学留学生別科・日本語研修課程修了式が、二月二十八日午後一時より執り行われた。今回、修了をむかえた別科生は、中国・サウジアラビアを中心に六カ国間の別科生各人の日本語習得に対する努力と、それぞれの今後の進路での活躍を期待するとの理事長並びに学長の祝辞が述べられた。

県内工業高校生の研究発表会

春日部工高の「風力発電の研究」最優秀賞に!!



最優秀賞の春日部工高の諸君

を感ぜさせる力作揃いであった。生徒自身の努力は勿論のこと、指導にあられた先生方の力量を感じた。研究を続けた月日は苦しかったが、やり遂げた達成感と充実感にはなにもにも勝る喜びがあったと感想を述べたグループがあった。

第八回埼玉県工業高等学校生徒研究発表会が本学学生会館で二月一日(月)、県内工業高校一五校の参加の元で開催された。

審査結果は次の通り。◎最優秀賞「風力発電の研究」(春日部工高)◎優秀賞「三校」(法隆寺東院夢殿の製作)(武蔵志高)・「AQUARIUM」(浦和工高)・「梁の性能競走」(飛谷工高)

近事片々

早いもので、日工大を卒業してから二十三年過ぎようとしています。高校を卒業し、建築設計事務所勤務として二年ほど過ぎた頃、大学で建築学について総合的に学んでみたいという大学受験を決心しました。最初は夜間部に入

学しようと思いましたが、いろいろと考えたうえで、会社を退職し昼間部の大学に挑みました。そして、数校受験したのですが、すべてに失敗し、とても俄仕込の勉強では及ばないことを実感しました。

ちょうどその頃、同級生の金子さん(建築学科一期生)から工業高校生に門戸を開放し、一年から専門科目を学ぶ日工大のことを聞き受験を決めました。入学試験も面接中心で私のような社会人には心強く思いました。

少し日工大の学生の一人となり、学生生活が始まりました。三年間の空白を経験した後で、戸惑いや不安の入り交じった複雑な気持ちになりましたが、辺りを回ると私と同じ経験をした人が数人おり、直に親しくなり、また、正規入学の年下の同級生達とも愉快

をやり大盛況であったことなどを話したことが懐かしく感じられます。卒業研究が軌道に乗った頃、会社からの依頼でアルミ構造の実験を行う機会がありました。実験を進めていくうちに依頼先の企業に興味を覚え、就職シーズンが迫る

まで没頭したことが懐かしく感じられます。卒業研究が軌道に乗った頃、会社からの依頼でアルミ構造の実験を行う機会がありました。実験を進めていくうちに依頼先の企業に興味を覚え、就職シーズンが迫る

今、私はカーテンウォールやトップライト等の実施設計を担当しています。その中でも東京国際フォーラムのガラス棟トップライトや熊本総合屋内プールのトップライト等が印象に残っている仕事です。

OB便り



「さいたまアリーナ」の建設工事を担当中

岡田 水雄
建築学科 (5期生)
システム(株)建材本部技術統轄部設計グループ専任課長

と高橋雅充先生に就職相談したところ、このほか話がうまく運び入社することが叶いました。その会社は日鉄カーテンウォール(株)という会社で、私はアルミアーチ構造の設計に携わり多くの現場を経験しました。その中で、特に印象に残っ

たのは、さいたま新都心が注目されていますが、私はそこに建築中のさいたまアリーナの建設工事を現在担当しています。今思うと、学生時代は私の人生で一番有意義な時であったと思います。また今回のOB便りの投稿により旧友との交流が復活することを楽しみにしています。

最近、さいたま新都心が注目されていますが、私はそこに建築中のさいたまアリーナの建設工事を現在担当しています。今思うと、学生時代は私の人生で一番有意義な時であったと思います。また今回のOB便りの投稿により旧友との交流が復活することを楽しみにしています。

台湾高苑工商専科学校より短期日本語研修生が来学!!

見慣れぬ雪景色に感嘆

本学と国際学術協定を結んでいる台湾の高苑工商専科学校より生徒十六名(引率教師一名)が、一月十三日(火)よりの十三日間、日本語研修のため来日、本学に滞在した。

この研修団の受入れは、本学でも最初の試みであるが、同校の応用外国語科日本語課程(日本の高校三年生に相当)の男女各八名ずつの研修生たちは、生まれて初めての雪に驚きながら、日本語の授業から、日本の近隣の家庭でのホームステイや、宮代町「国際交流の集い」参加、天元山荘でのスキー教室、田旅行等忙しいスケジュールをこなし、二十五日(日)全日程を終了して帰国した。

学心づくしの料理・飲物を囲み、お世話になった教員や同級生たちとのなかで、なほときを過した。

卒業生一同に贈呈!!

『実学の達人』

学園創立九十周年を記念して刊行した小冊子『実学の達人』が、中尾哲二郎先輩の教員が、学位記授与式に際して卒業生に贈られる。ちなみに中尾哲二郎氏は、本学の前身「東京科学学校」の機械科を、大正十二年に卒業。当時は町工場に過ぎ

なかつた松下電器器具製作所(現・松下電器株)に入社し、本学の伝統である「モノ」に学ぶを踏襲しながら矢張り独自の電気・電子工学を開発。同社の発展に大きな功績を記され、副社長ならびに技術最高顧問にまで登り詰められた希有な方である。

本書の前身は、ご自身が語り継がれた「ばくが歩んできた道」ならびに同社の現顧問・水野博之氏をゲストに理事長・学長

卒業生一同に贈呈!!

『実学の達人』

学園創立九十周年を記念して刊行した小冊子『実学の達人』が、中尾哲二郎先輩の教員が、学位記授与式に際して卒業生に贈られる。ちなみに中尾哲二郎氏は、本学の前身「東京科学学校」の機械科を、大正十二年に卒業。当時は町工場に過ぎ

なかつた松下電器器具製作所(現・松下電器株)に入社し、本学の伝統である「モノ」に学ぶを踏襲しながら矢張り独自の電気・電子工学を開発。同社の発展に大きな功績を記され、副社長ならびに技術最高顧問にまで登り詰められた希有な方である。

本書の前身は、ご自身が語り継がれた「ばくが歩んできた道」ならびに同社の現顧問・水野博之氏をゲストに理事長・学長

卒業生一同に贈呈!!

『実学の達人』

学園創立九十周年を記念して刊行した小冊子『実学の達人』が、中尾哲二郎先輩の教員が、学位記授与式に際して卒業生に贈られる。ちなみに中尾哲二郎氏は、本学の前身「東京科学学校」の機械科を、大正十二年に卒業。当時は町工場に過ぎ

なかつた松下電器器具製作所(現・松下電器株)に入社し、本学の伝統である「モノ」に学ぶを踏襲しながら矢張り独自の電気・電子工学を開発。同社の発展に大きな功績を記され、副社長ならびに技術最高顧問にまで登り詰められた希有な方である。

本書の前身は、ご自身が語り継がれた「ばくが歩んできた道」ならびに同社の現顧問・水野博之氏をゲストに理事長・学長

卒業生一同に贈呈!!

『実学の達人』

学園創立九十周年を記念して刊行した小冊子『実学の達人』が、中尾哲二郎先輩の教員が、学位記授与式に際して卒業生に贈られる。ちなみに中尾哲二郎氏は、本学の前身「東京科学学校」の機械科を、大正十二年に卒業。当時は町工場に過ぎ

なかつた松下電器器具製作所(現・松下電器株)に入社し、本学の伝統である「モノ」に学ぶを踏襲しながら矢張り独自の電気・電子工学を開発。同社の発展に大きな功績を記され、副社長ならびに技術最高顧問にまで登り詰められた希有な方である。

本書の前身は、ご自身が語り継がれた「ばくが歩んできた道」ならびに同社の現顧問・水野博之氏をゲストに理事長・学長

工業教育研究所跡に建設のゲストハウスが完成間近か



前号でお知らせした新しい施設がこの三月末に竣工の運びとなった。

編集後記

桜の開花が待ち遠しい季節です。三月二十日の学位記授与式を以て、平成九年度(終り)となります。今号は、卒業生特集号です。

本年度は、学園の創立九十周年という節目の年度でした。既報の通り、周年事業の企画がいろいろと実施されましたが、その最後を飾る「技術教育国際フォーラム」が、二月二十四日、東京国際フォーラムを会場に開催されました。日本を代表する素晴らしい講演者とパネリストにより、二十世紀の工業教育に対する提言がなされ、好評のうちに終えることができました。学園として、本格的に外部への情報発信ができたと思っております。直接会場に向いていただいた方々には、心より御礼を申し上げます。新たな年度に向かえば、工業を伝統としたものづくりを基本とする教育方針を将来とも堅持していきたいと思っております。是非、応援してください。(E)